

直示表現と疑似発話行為

阿部 宏
(東北大学)

時間ダイクシス *maintenant*, 空間ダイクシス *ici*, 移動動詞 *venir* 等の直示表現は発話者の発話行為を前提とし, これを基準にして意味が定まる. したがって3人称的な第3者は, その基準にはなりえない.

ところで, 小説等の過去世界を対象とした語りにもまた, 地の文に埋め込まれた形でこれらの直示表現が出現する. この場合これらの表現は, 作家の執筆行為にではなく, 任意の作中人物に基準を求める. しかし, 直接話法におかれた台詞でもないかぎり, 当該の作中人物は発話行為を行っていないはずである.

本発表では疑似主体の疑似発話行為という仮説により, 上記のダイクシス類や *sans doute* のようなモダリティ副詞, *sembler* のような思考動詞, *enfin* 等の副詞の主観的意味, 自由間接話法などの分析を試みたい.